

今、大山を超えよ

～難関を突破し、福を掴め～

浦和南高等学校進路支援部
令和6年度進路通信
第5号
2024年12月9日

苦手克服を実現する6つの視点！「蛍雪時代 12月号(R5)」

今週から期末考査が始まりました。さらに来年1月には共通テストがあります。苦手意識を引きずっている科目がある3年生も多いのではないのでしょうか。今回は文系と理系それぞれ3つずつ、それぞれの専門科目を中心に苦手を克服するために有効な視点を見ていきたいと思います。苦手科目がある1,2年生もぜひ、参考にしてください。

どこからが「苦手」？

大きく3つの観点から「苦手」について考えてみます。



- ①受験科目の入試に必要な範囲を終えていないために弱気になっている状況。
- ②受験勉強を進めるにしても、取り組む優先順位が低かったり、後回しにしてみたり、単語や用語を覚えることが中心になり、集中して十分な時間をかけて深みのある質の高い勉強ができていない状態。
- ③受験勉強をしているつもりなのに、受験に向けた勉強の成果が点数に反映されていない状態。

文系

克服するための視点

視点1 「英語の論説文や説明文が苦手な人は段落構成に注目して読み解こう！」

英語の読解総合問題、特に論説文や説明文の問題に自信が持てないと感じている人はいませんか。1つの視点として、パラグラフ(段落)の構成に着目するとよいでしょう。各パラグラフは、①トピックセンテンス(主題文)、②サポーターセンテンス(支持文)、③コンクルーディングセンテンス(結論文)から構成されています。トピックセンテンスは、パラグラフの最初に来ることが多いので、読み返すなら、各パラグラフのトピックセンテンスをたどるだけでも文章全体の流れが見えてきます。サポーターセンテンスは複数の文から成り立っています。具体例、原因と結果、タイムオーダー、対比などのパターンが多いので、このパラグラフの構成が分かると、設問に答える手がかりが見つけやすくなります。



視点2 「解答前の目標時間設定と構想が記述問題の苦手克服につながる！」

問題に答える解答時間が足りなくなってしまう。時間が足りず記述答案を白紙にしまったり、解答している途中で終わったりしてしまう。こうなりがちな人は、解答を始める前に大問の数、選択問題と記述問題のボリューム(特に記述問題の指定字数や語数)を確認して、各大問や記述問題にどの程度時間を割けるか目標解答時間を設定しておくといよいでしょう。その際に大事なことは、見直しの時間を必ずとっておくことです。この時間がいざというときに助けてくれます。また、指定の字数や語数が多い問題では、解答を始める前に1～2分程度、構想を練ることで。メモ程度で構いません。文章の組み立てやキーワードを書いておくと、見直しの際に、問われていることに答えている答案になっているか確認できます。

視点3 「苦手科目の勉強を後回しにしがちならサンドイッチ勉強法で取り組もう！」

苦手意識の強い科目の勉強が後回しになってしまう。このような人にぜひやってみてほしいのが、“サンドイッチ勉強法”です。まずは得意科目の勉強から始めて、次に苦手科目、そしてまた得意科目というように、得意科目と得意科目の間に、苦手科目の勉強に取り組むのです。得意科目はすぐに集中できるものですが、苦手科目は気持ちが乗らないぶん、集中の度合いが薄かったり、持続力が高まらなかったりするものです。最初は時間もそれほど長くかけず、勉強のリズムができてきたら時間を少しずつ長くしていきます。苦手科目のあとには得意科目の勉強が待っているとなると、不思議と気持ちが前向きになっていくものです。モチベーションアップが期待できるので、自分との向き合い方の一環として試してみる価値があります。



理系

視点4 「公式や定理などをうまく使えないなら教科書に戻って本質を理解する努力を！」

理系科目が苦手な典型例として、基本的な公式や定理、法則をうまく使えないことが挙げられます。そのような場合は「この公式や定理がなぜ成り立つのか」や「この法則が成り立つ条件は何か」などを教科書に戻って見返すことをおすすめします。共通テスト本番まで残り2カ月なので、問題演習の時間が減ってしまう怖さがあるかもしれませんが、理系科目の得点を難関大合格ラインに到達させるためには、物事の本質まできちんと理解することが必要不可欠です。よく理由もわからないまま、なんとなく公式にあてはめて正解できたとしても、再現性は高まらず、本番で正しく答案を書ける保証はありません。今まで習ったすべての公式を調べ直す必要はありませんので、定着していないものだけを拾い出して復習するといいいでしょう。

視点5 「苦手克服には2回以上の演習が必須！ただし、回避の戦略が必要な場合も」

教科書や参考書の問題を演習したときは解けていた内容にも関わらず、いざ学校のテストや模試で少し数値が変わったり文章の表現が変わったりした途端に、問題が解けなくなることも理系科目が苦手な人に起こる典型例です。この場合、その単元を何回演習したかによって対処方法は異なります。まだ授業で新しく習ったばかりで演習回数が少ない場合は、演習不足が原因ですので数値や表現の変化に対応できないのは当然です。最低でもその単元を2回以上演習しないと定着しませんので、根気よく学習に取り組めば克服できるようになる可能性は十分あります。ただし、3、4回演習してもお手上げ状態のときは、共通テストの選択問題でその単元を避けたり、後回しにする戦略を考えたりするのもありかもしれません。

視点6 「“模範解答を読めば理解できた問題”を重点的に演習し、効率的に対策しよう！」

理系科目の勉強に多くの時間を費やしているのにも関わらず、得点が伸びないせいで苦手意識を持ってしまう人をよく見かけます。このような場合、演習問題を3つに分類して対処します。「模範解答を同じ流れで答案が書けた問題」はすでに理解できているので心配はありません。「模範解答を読んでも理解できなかった問題」は学習時間のロスになるのであまりこだわらずに次の問題に移りましょう。大切なのは「答案は不十分だったが、模範解答を読めば理解できた問題」です。ここに重きを置けば効率よく苦手克服ができます。模範解答を書き写すことで目と手を使って記憶したり、先生や友達に答案をみせて採点してもらうことをおすすめします。「読めば理解できる」を「答案が書ける」に変化させることが得点アップにつながります。

